

今昔

開成幼稚園の
のびのびと遊び、友だちと関わり合いながら学んでいく姿は今も昔も変わりません。

昭和

令和

衣装つくり



▲S60



▲R1

お店屋さんごっこ



▲S62



▲R3

水遊び



▲S59



▲R3



▲シンボルのキリン



▲R2/かいせいにここにご会



▲S60頃/開成駅へ



▲R3/あじさい農道へお散歩



▲S60頃/開成駅へ



▲S61/マラソン大会

特集 開成幼稚園50周年

開園から50年を迎えた開成幼稚園。町内唯一の幼稚園として、これまで5,700名以上の卒園児を送り出してきました。現在、県内の公立幼稚園で一番多くの園児数を誇ります。

今回の特集では、開成町の節目や発展に寄り添ってきた開成幼稚園の誕生からこれまでをインタビューをとおしてふり返し、現在の幼稚園について紹介します。

☎ 学校教育課 ☎82-5221

角張さん親子Interview

小さな町だからこそ

私は、昭和59年に卒園しました。卒園して約40年経ちますが、今でも幼稚園の時の友人たちと仲良くしています。当時は、小学校がまだ一つだったので、幼・小・中の11年間を一緒に過ごしてきました。一生の友だちができたのも、小さな町だからこそだと思います。

親子で同じ幼稚園に

今、私の子どもも開成幼稚園に通っています。クラス名が、私の幼稚園時代から変わっていないため、小学生になった上の子は、「パパと同じクラスになって嬉しい!」と喜んでいました。

時を経て、親子で同じ幼稚園に通えていることは、とても感慨深いです。

開成幼稚園の魅力

園児数の多さが一番の魅力だと思います。年齢や性格が様々な友だちに出会うことで、友だちの作り方や付き合い方を学べていると思います。今、通園している下の子、蓮花は幼稚園が大好きで、毎日「早く幼稚園に行きたい」と言っています。PTAの用事で園を訪れると、いつも子どもたちが楽しそうにしているのが印象的です。

また、「町立」という点も、公的な機関に守られている安心感があります。

園長Interview

開成幼稚園のはじまり

昭和45年4月に開設された開成幼稚園。当初は、開成小学校の敷地内に園舎があり、運動会も小学校のグラウンドで実施されていました。

昭和51年には現在の牛島地区へ移転。移転当時、壁画はありませんでしたが、昭和60年頃にキリンの壁画が描かれ、現在では「キリンの園舎」と呼ばれるなど園舎のシンボルになっていきます。

うか。近年では、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な役割を担っているといわれています。そのため、就学前において様々な遊びや、体験を通じて「目標に向かって頑張る力」「人とかがわる力」「感情をコントロールする力」などの目に見えない力(非認知能力)を身につけることが重要となっているのです。

町に移り変わるとともに
これまで、様々な園行事が町の移り変わりと共に行われてきました。昭和60年に開業された小田急線開成駅を園外散歩で見学に行き、野原だった駅前でお弁当を食べ、昭和61年には現在の開成南小学校前の未開通だった道路でのマラソン大会。毎年恒例となっているあじさい農道への園外散歩など。開成幼稚園の子どもたちは、町の歴史と共に、沢山の思い出を作ってきました。

開成幼稚園では、開設当初から「子どもの自由な遊び」を大切にしながら教育を続けており、のびのびと遊べる環境づくりを心掛けています。日常生活や遊びの豊かな体験とおして生きる力の基礎を育て、小学校以降の学校教育へ繋げていきます。



PTA会長
かぐり 角張 太一さん
かぐり 角張 蓮花さん



よねやま たかし 米山 孝 園長